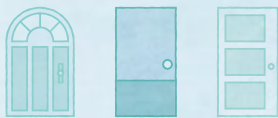


日本史コース



日本史コースとは

日本史コースには、考古学・古代史・中世史・近世史・近現代史を専門とする五人の教員が揃っています。そのため、日本史の全ての時代、どのような関心にも対応できる態勢になっています。日本史コースでは毎年夏休みに大阪府和泉市で「合同調査」という地域の歴史調査を実施しています。教員・大学院生・学部生の多くが参加するこの調査では、地域に残る古文書の調査や、地域住民からの聞き取りなどに取り組みます。そのほか、分野・時代ごとでも発掘・測量調査や古文書調査、史跡見学、まち歩きなどが活発に行われています。

齊藤先生の研究

近世（江戸時代）の地域社会・都市社会について研究しています。これまでは、幕府領や大名の領地が錯綜していた和泉国の地域社会（村落社会）について研究してきました。近年は、近世大阪の都市史研究にも取り組み、大坂城周辺の武家地と町人地社会の関係、武家地の武家屋敷で働く武家奉公人のあり様などを、都市社会史の視点から分析しています。日本の社会には、近世の生活共同体である村や町の古文書が膨大に残されており、未発見・未整理の古文書もたくさんあります。そうした古文書の調査は、私にとって研究のなかでも特に楽しい時間です。それらの史料を読み解いて、村や町、商工業者の仲間、大名の家臣団など、多様な身分集団・社会集団によって構成される近世社会のあり様を具体的に解明したいと思っています。



准教授 さいとう ひろこ
齊藤 紘子 先生

日本史コースを選んだ理由

元々は理系を志望していましたが、高2の時に日本史に興味を持ち、より深く学びたいと思い文転しました。特に、史料を読み、現地の観察や聞き取りを通して歴史を明らかにしていく点が興味深く、迷わず日本史コースを選びました。

日本史コースの魅力

日本史コースの授業は、他の学生や先生方との議論が中心です。歴史は一人でも学べますが、自分だけでは気づけなかった視点を知り、より理解を深められ、視野を広げられる点が何より魅力的です。

卒論テーマ例

- ・西成鉄道の発起及び設立と都市地域社会
- ・畿内周辺におけるトイレ遺構の分類と整理
—堺環濠都市遺跡の分析を中心に—
- ・奈良時代の地方仏教行政について
—国師を中心に—

面白いと思った専門科目

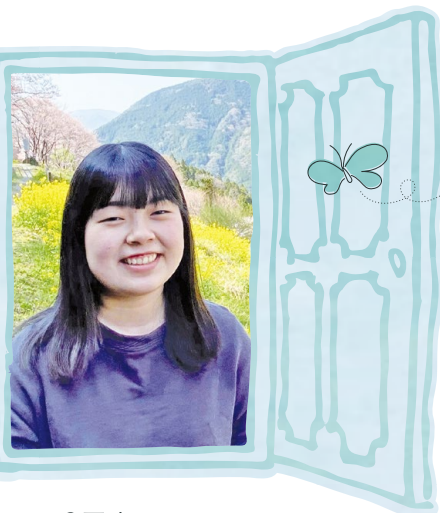
【科目名】日本史講読Ⅲ

近世の史料をもとに議論する授業で、くずし字で書かれた史料の読解には苦戦しましたが、村人たちの日々の暮らしや出来事など、歴史の教科書には登場しないような事柄を知ることができ、身近に感じることができ、とても面白かったです。

日本史コースにとっての『とびら』とは？

日本の歴史的・伝統的な建造物の出入口には、木や石でできた門扉のほか、鳥居や障子、のれんといった多種多様な形の「とびら」がみられ、開閉方法も引き戸・開き戸・がらり戸など様々なタイプが存在します。また、大手（追手）と搦手、玄関と勝手口など、用途に応じた区別も重要でした。こうした「とびら」は、壁・柵・石垣などで区切られた空間と空間のあいだを人や動物が往来するための設備ですが、「開けずの門」として閉鎖状態にこそ意味がある場合もありました。

ある具体的な建造物の「とびら」の歴史について、いつ何のために設けられたのか、素材は何か、どれぐらいの労力と費用がかかったのか、誰がどう利用していたのか、文字・文様が刻まれていたのかなどを、関連する遺物・古文書・記録にあたって探ってみると面白いでしょう。その先にはきつと、現在とは異なる時代背景や、そこに生きた人々の生活・考え方などが見えてくると思っています。（文・齊藤先生）



3年生 いわさき もえみ
岩碓 萌見 さん